

哀れなほど小心な対応

李総統来日問題と日本政府の対中姿勢

伊原 吉之助

李登輝総統訪日騒動

十月二日から広島で開かれるアジア・オリンピック競技大会開会式に、台湾の李登輝総統が来賓として招請状を受け取っている。大騒ぎになった。「一中一台」を認めぬ中国は入国拒否を日本に迫り、「統一」までは対等の「政治実体」とする台湾は、国際社会に中国とは別の存在を訴える好機として訪日に期待した。

中台外交戦に巻き込まれた日本政府・外務省は「招請状を出したアジア・オリンピック評議会(OCA)と、当事者である中台との三者協議」に解決を委ねたが、裏では李総統訪日つぶしに動いた。中国へは早くから「実現させぬ」と通告していたらしい。台湾には、李総統の代理として徐立德副首相・郭為藩文相・李宗濤体育運動総会会長三人の出席を認めて折り合いをつけた。

十月二日から広島で開かれるアジア・オリンピック競技大会開会式に、台湾の李登輝総統が来賓として招請状を受け取っている。大騒ぎになった。「一中一台」を認めぬ中国は入国拒否を日本に迫り、「統一」までは対等の「政治実体」とする台湾は、国際社会に中国とは別の存在を訴える好機として訪日に期待した。

中台外交戦に巻き込まれた日本政府・外務省は「招請状を出したアジア・オリンピック評議会(OCA)と、当事者である中台との三者協議」に解決を委ねたが、裏では李総統訪日つぶしに動いた。中国へは早くから「実現させぬ」と通告していたらしい。台湾には、李総統の代理として徐立德副首相・郭為藩文相・李宗濤体育運動総会会長三人の出席を認めて折り合いをつけた。

十月二日から広島で開かれるアジア・オリンピック競技大会開会式に、台湾の李登輝総統が来賓として招請状を受け取っている。大騒ぎになった。「一中一台」を認めぬ中国は入国拒否を日本に迫り、「統一」までは対等の「政治実体」とする台湾は、国際社会に中国とは別の存在を訴える好機として訪日に期待した。

中台外交戦に巻き込まれた日本政府・外務省は「招請状を出したアジア・オリンピック評議会(OCA)と、当事者である中台との三者協議」に解決を委ねたが、裏では李総統訪日つぶしに動いた。中国へは早くから「実現させぬ」と通告していたらしい。台湾には、李総統の代理として徐立德副首相・郭為藩文相・李宗濤体育運動総会会長三人の出席を認めて折り合いをつけた。

中国の身勝手な要求

中国は「台湾は中国領」というが、これは要請であって事実ではない。カナダが中国との国交交渉で「一中」を反論した。

①台湾はカナダ領でない。台湾を中国領と承認する立場はない。

②カナダがこれを承認すればカナダの船舶・国民の訪台時に中国の領土を侵犯する恐れがあるが、中国が台湾を事実支配していない以上、中

しよがないのだ。

一九七二年に国連代表権が「中華民国」から「中華人民共和国」に変わったが、「中華民国」が大陸を代表していない。国は「政治は政治、スポーツはスポーツ」と言って断った。国は台湾を代表していない。両政権共存では旧東西ドイツ、現南北朝鮮と同じである。ところが中華人民共和国政府は、あたかも現在台湾を支配しているかのように振舞っている。

クウェート籍のアーマド・ファハド会長が李登輝総統を招請したのは、中国へのあてつけだった。前回の北京大会は、イラクのクウェート侵攻直後に開かれた。初代OCA会長シェイク・ファハド殿下(アーマド殿下の父)がこの

台湾無視姿勢の背景

日本はこの中国の独善に同調してきた。だが、台湾の繁栄する経済が、冷戦後の新世界秩序構築に貢献できる力量を持った上、政治も民主化が進み、共産党独裁体制の大陸とは別の独自の存在になった。国民党独裁体制は、李登輝総統の下で解体したのだ。

この新生台湾を見直す機運が「二一」三年盛んで、西側主要各国が頻りに現職閣僚を訪台させているが、日本だけ、中国寄りの姿勢を改めていない。

今年一月八日、訪中した羽田外相(当時)が北京での記者会見で現職閣僚の訪台を否定した。七月二十四日、乗機

関係がひどい。

「日中関係は、一方は事実ある毎に過去を問い、他は経済協力で歓心を買おうという極めて片務的な関係だった。これを放置すると国民の心中のよもやは一段と増幅するだろう。政府はその危険な芽を生えさせ、恐れ戦くべきではある

だがアーマド殿下の意に反し、中国はスポーツに政治で介入した。オリンピック憲章には「いかなる国も個人も、人種・宗教・政治を理由に差別してはならない」とあるの招請したのは、中国へのあてつけだった。前回の北京大会は、イラクのクウェート侵攻直後に開かれた。初代OCA会長シェイク・ファハド殿下(アーマド殿下の父)がこの

事なかれ主義外交

事なかれ主義は、強い主張に引きずられる。中国然り、北朝鮮然り。対米関係も然り。こちらに原理原則がない限り、善意で対応し、金を出しても軽蔑されるだけだ。国際社会で名譽ある地位を占めたという憲法前文の願いは、事なかれ主義では達成できない。

外務省の雑誌「外交フォーラム」九月号で、波多野敬雄前国連大使がいう。意見をハッキリいわないと尊敬されない。敵を作るのを嫌う考え方が、明確な主張をする支障になっている。これを受けて諸井度秩父セメント会長がいう。仲介役は双方から恨まれる覚悟が必要です。日本外務省が中国側からも叩かれたい。仲介役を果たしていると言えないのだ。周恩来を怒鳴らせた高島長官局長に学んで戴きたい。

まいか(原典「二正論」二「孫子曰く、百戦百勝するは善の善なる者に非ざるなり。戦わずして人の兵を屈するは善の善なる者なり」(謀攻篇)。日本は中国に自ら屈している)ように見える。

これまでも何度「言つべき」とを言おうといわれてきたことか。言つべきを言えない日本人が多いからである。無理もない。人材を養成してこなかったのだ。

喧嘩のうまい人ほど、自己主張も調停もうまい。喧嘩を通して人間関係に通じているからだ。だが今や一人っ子、二人っ子で大事に育てられていて、喧嘩などしたことがない。学校で表現・主張の訓練をしていない。秀才は理解して主張せず、できもしない。国会で代議士は質問も答弁も他人の書いた文章を棒読みするだけ。新聞記者も反論や質問をほとんどせず、相手の言いつ分を聞いて書くだけ。

対中姿勢を変えよ

日本外交への要望が二つある。第一、対中べったり姿勢を第一、対中べったり姿勢を

日本外交への要望が二つある。第一、対中べったり姿勢を第一、対中べったり姿勢を

の好機である。台湾の存在を認めれば、日本外交は虚構から脱し、無二の友好国を持つ。

台湾は当面、李総統の訪日をあくまで求めよう。問題化すれば中国の独善、日本の軟弱さが浮かび上がる。次は、十月末に横浜で開かれる「アジア・オープン・フォーラム」出席要求が出よう。母校京都大学の同窓会出席も、二年越しの懸案だ。一昨年十一月の「アジア・オープン・フォーラム」京都大会への出席は、外務省が阻止した。天皇訪中と重なり、中国を刺激する」という理由だったと聞いている。

日本は来年十一月、アジア太平洋経済協力会議(APEC)の開催会議・首脳会議を主催する。ここで李総統訪日問題が生ずる。

九月七日、アメリカは新台湾政策を発表し、台湾最高指導者の米国通過を認めた。今年五月、李総統が中南米の国交を訪問する際、日米経田を試みたが、日本は拒否、米

交通誘導警備のバイオンア

TEIKei

帝国警備保障株式会社

本社 〒160 東京都新宿区新宿5-17-17 渡邊ビル
☎(03)3207-8511代 FAX.(03)3232-7404
業務推進本部 ☎0120-01-7159

新世界無秩序に備えよ

日本外交への要望第二点は、明確な主張を持つことである。日本の望む世界秩序を示し、その実現のため努力と説得を続けること。国際社会で行動するには、目指すものを明示せねばならない。これは外務官僚より、政治家の任務だろう。

日本は、国連安保理事会の常任理事国を狙っている。だが李総統来日問題一つをさげすみに、どうして国際紛争が処理できようか。今後は新世界無秩序が予想されている。

だが、構想立案も運用も人材が全てかも知れない。日本は大量生産のため、自己主張しないおとなしい中堅を大量生産した。今後必要なのは指導者と独創的人材だ。人材養成が急務である!

(帝塚山大学教授)